

お客様の声に

「ダスキンコールセンター、0120・100・100」といえば、昔の「きんさんぎんさん」のテレビCMを思い出して下さる方もおられるのではないのでしょうか。ダスキンのお客様窓口ですが、商品やサービスのお申し込みだけでなく、ダスキンやミスタードーナツに対するご意見も多く寄せいただいています。

「約束の時間に来ない」、サービスをお申込みいただいたのに「忙しいので：」、「接客がよくない」など。お一人おひとりのお客様の期待にお応えできず、中には不快な気持ちにさせてしまっていることさえあります。ダスキンは「喜びのタネをまこう」を創業の願いとしてス

タートし、今もそのことを第一に考え、ダスキン全体の指針としているのに、担当者が電話に耳を傾けお応えしているのを聞いていると、まだまだ十分ではないこと、申し訳なく胸が痛みます。

全てはフランチャイズ本部の私の責任だと痛感すると共に、新商品・新サービスも大事だが、それ以前に「世界一お客様にやさしいダスキン」を目指して、お客様の声をお聞きし、ご満足いただけるようにお応えすることを大切にしたい。そして、ダスキンファミリーには何よりも「人がすべて」と語り続けていかなければと思っています。

株式会社ダスキン 社長

山村 輝治



写真・市谷 健「たまんな〜い！」

読む人の心に願って
幸せを願って
作る

喜びの タネまき 新聞

no.520

星がいつばいの夜空を星月夜ともいいますが、ながめて、ながめて、心の中が星でいつばいになってしまふ時間。日常の扉が開くときです。

「星夜」



自然の中へ出かけることが多い
ほくでも、目の中が星で満たされ
てしまう体験はさほど多くない。
あるキャンプ場で、仕事仲間や知人
と一緒にテントを張って泊まった時
のこと。

誰かの「山へ行ってみたいね」とい
う一言で始まった夏の日、初キヤ
ンプの女性も交えてたき火を囲む
中で暮れていった。服装は森や山へ
行く出で立ちだが、そのまま街の
中から移動してきたような感じ
で、暗闇は少し恐く、何をするに
もざわざわと群れ騒いで、それも
楽しい。

街灯などなく深山の雰囲気なの
が満足。ふと見上げると、梢の間
から星が見えた。自然のふとこ
ろに抱かれる楽しみは満天の星空だ
と思ひ、ライトで足元を照らしなが

ら、全員を小高い丘の上まで連れ
て行った。

10分くらいの道を肩を寄せ合い、
手を引きながら登る。みんな緊張
してテンションが上がり騒々しい。
夏の木々の間を縫い、汗ばむ頃に
てっぺんに着いた。すっと風が通った。
「みんな着いたね。ライトを消し
て！」一瞬、傍らにいる仲間も、自
分の手も全てが闇の中に消え、声
も夜空に吸い込まれるように消え
た。星の海が頭上に広がっている。
黙って見上げた。首が痛くなるほ
ど立ち尽くした。「さあ、みんな座
って」更に言った。

「寝そべってみようよ」
夏の日日照らされた大地は、夜
になつてもまだ温かみを残し、背
中を支えてくれる地を親しく思い、
胸に安心感が広がる。大地と星空
の他には何も無い。

気持ちがおおらかに、一時
みんな無言。ぼくは地球にいるん
だと心から思った。自分の星夜は
そのとき、みんなの星夜だった。

絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に陽はのぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」(書肆侃侃房)、「森のくらし」(リヨン社)など。



牛乳パックで作る「フルーツアイスクリームケーキ」

カットしたフルーツとバナナアイスを重ねて作ります。火は一切使わず、冷凍庫で冷やすだけ。おもてなしには、フルーツを多めにすると驚くほど豪華です。

お料理研究家 こいけりえ



おやつ時間 簡単、美味しい楽ラクレシピ

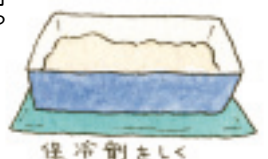


◎作り方(6〜8人分)
●型作り
1ℓの牛乳パックをきれいに洗い、乾かします。一面を切り取り、型として使います。あけ口を四角く折りたたみテープでしっかりと止め、長方形の型を作ります。



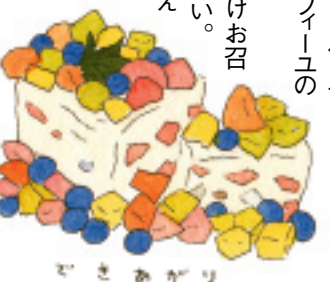
●下準備
お好みのフルーツをそれぞれ小さく切っておく。今回は、キウイ、メロン、ピンクグレープフルーツ、ブルーベリー、缶詰では、みかん、パイナップル、黄桃を使用。グレープフルーツは薄皮を剥いて、上からグラニュー糖をふっておく。

凍ったカットフルーツはトッピング用だけ残して冷凍保存し、バナナアイスと共に牛乳パックの型に入れていく。アイス→フルーツ→アイス→フルーツ→アイスの順番に重ね、たっぷり彩り良くフルーツを挟むことがポイント。バナナアイスはしっかりと角まで入れる。素早く作業しないとアイスクリームが溶けてしまうので、型の下に保冷剤を敷いておくとう安心です。重ね終えたアイスクリームは牛乳パックごと全体にラップを巻きつけて形を整え、冷凍庫で3時間以上冷え固める。



●アイスクリームケーキ作り
バナナアイス900ℓは、作り始める前に冷凍庫から取り出し、スプーンですくいやすい状態にしておく。このとき、室内の温度に気をつけてアイスが溶けすぎないように注意する。なお、低脂肪のアイスの方が、フルーツの味が立つようです。

●トッピング
冷凍庫で冷やし固めたアイスはラップをはずし、牛乳パックの切り込みからパックを剥がして取り出す。冷やしておいたお皿にアイスケーキをのせて、凍らせたトッピング用のフルーツを彩りにミントやセルフィーユの葉を飾る。ナイフで切り分けお召し上がり下さい。切り口から見える色とりどりのフルーツが、美味しさを倍増します。



みんもらぶー！

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



虫愛する姫君たち
神奈川県逗子市 小澤貴子



リズムにのって♪
熊本市 織田明日佳



「夏だあー！」
鳥根県出雲市 藤田真由美

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！(詳細は7ページ)

八 戸で開かれる朝市は10カ所。中でも館鼻岸壁は日曜の朝になると人が湧く。夜明けと共にわつと来て、午前9時頃にはわつと引く。普通の岸壁に多いと5万人の人出。お訪ねした日の出店は350店、3万人。賑わいの8割が地元の人で延べ年間150万人というから驚く。

宿泊ホテルから朝市朝ぶる乗合タクシーが出たり、日曜朝市循環バスが回ったりで、地域をあげて盛り上げている。「地元の人に支持されないと発展していかない」うぐん、市場の原点です。と感心。街中の店、漁師さんや農家さんの店、雑貨や衣類、骨董品もある。「協同組合化してます」と理事長は長芋を売りながらニコリした。

はちのへ 朝市さ、



あ ん べ!

青森県八戸市は全国有数の水揚げ量を誇るみなとまち。「特にイカは日本一」で「朝市と朝ぶるもトップクラス!」なのだそうだ。館鼻岸壁で開かれる日曜朝市をお訪ねした。



笑顔が素敵! 左から藤村幸子さん、松橋さん夫妻。手作り雑貨「まつや」の前で。



市内に点在するお店や産物がぎゅつとここに凝縮。人々も凝縮して朝7時には熱気最高潮。魚や野菜、花も惣菜もなんでもござれ。朝市に来て朝食を食べ、ついでに夕食も干物も買う。買い物ついでに「あら〜っ」と知り合いと顔を会わすので、これまた話はずんで元気になる。八戸はもともと地震が多いという意識が市民にあり、上下水道管は災害対応になっている。けれど、昨年の大震災では船主さんが船を失い水産加工場も被災。春が巡って暖かくなるまで夜の市街は人も少なく、真っ暗だった。

朝市を再開したのは昨年7月。まだ瓦礫が残る岸壁で、「最初はみんな、おっかなびっくり」と藤村幸子さんが話してくれた。5年前から町づくり活動に関わった女性たち36人を取りまとめ「まちの駅はちのへ」の運営に携わる。復興のボランティアも勤め、現在開催している東北観光博では、地元の旬な情報を提供する地域観光案内人だ。

「まちの駅はちのへ」で会った松橋さん夫妻が、朝市に店を出し、本紙の読者だったのも嬉しかった。

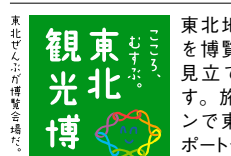
安くて美味しく楽しいから、1年も経たないうちに朝市に人は戻った。「外国の観光客はまだだけど」復興にむけた柱の一つは観光だと、思いは同じだ。けれど、生産者も客も境目なしの、どこかゆるく抜けた温かさはなんだろう? 聞けば、朝ぶるも観光客向けばかりでなく、「ここは早朝営業の銭湯が多いんです。夫は内風呂に入ったこと、あまりないんですよ」と藤村さん。「朝市さ、あんべ」というのは一緒に行くこうという感じで、「ん」は小さく発音する。よくいう「あばっせ」は浜言葉だということだった。いずれにしても、この人達の人情の厚さというか、熱さは海を向いて立つ八戸流と言うべきかも。



炭火焼きはしゃっこく(冷たく)なっても美味しい。栄養も風味も逃げないから魚も幸せヨ。



東北観光博 開催中!
(2013年3月31日まで)



東北地域全体を博覧会場と見立てています。旅のサロンの東北パスポート発行中!

<http://www.visitjapan-tohoku.org/>



いっぴい 神奈川県横須賀市 舘野和子

私の住む地域では2、3社の宅配便屋さんが毎日くるくる回っている。家に来る配達人の一人は年配の方で、孫に小遣いをやりたいので頑張っていると言っていた。

猛暑の続くある日、荷物を受け取りに門まで行くと、汗びっしょりのおじさんが、「水いっばいくれる？」と言うので、急いで麦茶を渡した。一気に飲むと、笑顔で頭を下げてすぐに仕事に戻って行った。それ以来、おじさんのピンポンだと分かると、麦茶を持って出て行くようになり、ちよこつと世間話をする。

その日もピンポンが鳴ったので、急いで麦茶を持って出ると、おじさん、門によりかかり、「今日、荷物ねんだよなあ」だって。「えっ、え!?」。思わず二人で大笑い。にわか給水場でのひとこまでした。

——ちよこも暑かったんだもん。



母とミシン

福岡県北九州市 岩本万知子

今は亡き母は、和裁が得意で浴衣などを内職として縫っていた。また同時期に洋裁も始めた。当時、ミシンは高価で一般には普及しておらず、持っている方が珍しかった。

ある日、我が家にもミシンが来た。私はとても嬉しくてならなかった。母が縫ってくれたボレ口風の上下服は妹とお揃いで、二人でこれを着ると晴れ着のようで心がはずんだ。海辺で撮った姉妹の白黒写真は懐かしい一枚です。

私も母の年齢以上に生きてきた。今、ミシンに向かうと縫いながら母の気持ちを感じる。戦後の食料難や着る物にも不自由な時代、子供4人を育てるのに一生懸命だったであろう…。母が生きていたら、孫を見せてあげたり、美味いものを食べさせてあげたのにと残念至極である。

——思い出す遙かな日々。



取りにおいで

長野市 島田貴子

毎日、暑い日が続いています。「たまねぎ取りにおいで」先日、実家の母から電話をもらい、喜んで主人と出かけました。

畑に着くと、ちょうど母が収穫しているところでした。100坪ほどの借りている畑ですが、ジャガイモ、トウモロコシ、グリーンピースなど、いろいろな種類の野菜が作られていて、大きな袋3つもありました。母は86歳。いつも作った野菜をもらってばかりで、申し訳ないと思っはいるのですが、野菜作りもまた母の生きがいです。62歳で自動車の運転免許を取り、農具をつんで、とれた野菜をご近所に配ってまわっています。ますます元気な母を私も見習わなくてはいいかと、日々思っています。

——元気がいっばい



お父さん

長崎県佐世保市 牟田シズヨ

真夏に亡くなった父との思い出は、ある冬の一日です。私が小学校3年生、70年前の小雪が舞う寒い朝のことです。起きると少し熱っぽい私に、「大丈夫か？学校へ行けるか？」と父は出勤前に私を学校へ連れていってくれたのです。自家用車はもちろん、バスもない時代。家から50分ほどかかる道のりです。学校へ行く用意を済ませた私を毛布にくるんで抱くと、玄関を出ました。学校に着くと、教室の私が座る小さな椅子に私を抱いたまま座り、一時間目の授業を一緒に受けてくれました。

「よし。これで休まずにすんだ。6年間無遅刻無欠席で頑張ろうね」父はそう言うと、今度は病院へ連れて行ってくれました。——翌年、父は長崎の原爆中心地で仕事中に被爆をして、45歳の若さで亡くなりました。いつの日も家族思いで、愛情を注いでくれた父。忘れられないあなたかな思い出です。

——思い出が明るく照らす人生の道。



夏休み

宮崎県小林市 出田勝利

毎年お盆には、孫娘が夏休みの宿題をたくさん抱えてやってくる。ソコとするお盆の始まり。部活の休みは3日間だけ。宿題をまとめて片付けるのです。「じいちゃん、お願い！」この一言で孫娘と共に宿題をする羽目になります。

この子は産まれて間もなくして体が悪くなり、点滴を受けながらの入院生活が続きました。本当に体の弱い子供でしたが、中学生になった今では、バスケットの選手として頑張っています。母子家庭ですが、明るく元気に成長しました。「じいちゃん、お風呂に入ろうー」はよいのですが、次には「はい！背中洗ってね」。この光景は幼いときからずっと続いています。73歳、この孫娘のためにも頑張らなくっちゃ！

——孫は活力のミナモト



ちゃんと

山形市 阿部里美

我が家のちっちゃな庭の草取りが、私の土日の楽しみです。先日も熱中症に気を付けながら草取りをしていると、図書館で勉強中の高校生の次男が、慌てて自転車で帰ってきました。

「なんだ。元氣じゃん。電話ちゃんと出てよ」どういことが息子に聞いてみると、東京にいる長男が、家に電話しても携帯に電話しても、私が出ないので、「庭で倒れているに違いない。すぐに見てこい」と連絡をしてきたそうです。「そんな年じゃないわよ」と思いつつ、いつもは私に無関心な息子達が、そんなやりとりをして心配してくれて、反抗期まっ只中の次男が慌てて帰ってきてくれたことが内心嬉しくて、ニヤニヤしながら草取りを続けました。

——なんか、うれし！その気持ち、分かります。

「ケンカしても、うるさくても、3人一緒がいいね！」



京都市 木本努

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp
No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
<http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html>

●4-5ページの「館鼻岸壁朝市」について
[開催日時]
3月中旬～12月の毎週日曜日 日の出～午前9時頃
※開催日程は変更の場合もありますのでお確かめください。
[問合せ]
・八戸市観光課 電話：0178-46-4040
〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1
<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/kanko/>
・まちの駅はちのへ 電話：0178-47-8870
〒031-0042 青森県八戸市十三日町8村吟ビル
・東北観光博 事務局
東北圏内から／電話：0120-104927 東北圏外から／電話：022-721-6323
e-mail:info@visitjapan-tohoku.org

あなたのお便りや写真をお寄せください

愛を捧げる喜び

わからなくてもいい
きらわれてもいい
ゆるしてください
私はあなたが好きだ
そして、あなたのために
どれだけのことが
できるのか
私にやらせて下さい
それだけでいい
惜しみなく愛を
捧げてみたい！

鈴木清一

愛の輪

誰かが心地よい喜びを届けて



第4回 車いすを使っている人はどうやって飛行機に乗るの？

飛行機の通路は狭いので、空港でチェックインする際に自分の車いすを預けます。搭乗口まで航空会社や空港の車いすで向かい、さらに車輪の小さな折りたためる機内専用車いすに乗り換えてようやく飛行機に搭乗できるのです。もしも機内で隣り合わせた時には、お互いを思い合う余裕を持って空の旅を楽しみたいですね。

※航空会社ごとのルールにより空港、機内のサービスが本文と異なる場合があります。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270 HP (<http://www.ainowa.jp/>)
愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障害のある若者に、海外での研修支援を行っています。

🌱エコな取り組み ~大分県大分市~
小さな灯りでエコを感じよう

大分市の府内五番街商店街で開かれる『府内学生ECOフェスタ』は、楽しく環境問題を考えるお祭り。メインは、芸術文化短期大学による“廃油キャンドルのアート”と、“日本一小さな花火大会”と名づけた**線香花火**の時間です。小さな灯りと向き合うことが、節電意識につながるんですね。

🌱灯りは大切に
しなきゃね

●ダスキンでもさまざまなエコ活動を実践中。webで「ダスキンのエコ」を検索してね。

ダスキンのお客係募集中!!

詳しくはwebで

お客様係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも
アクセス

お楽しみクイズ

大分市の
“日本一小さな花火大会”
で使う花火は?



A 線香花火 **B** 打上花火

正解者の中から30名様に
「キッチンきれいセット」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

- ハガキに
①クイズの答え ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢
⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名
⑨この新聞内で好きなコーナーをご記入の上、
下記あて先までお送りください。
- クイズ専用のあて先 ※郵便番号(住所不要)とあて先を
〒163-0265 **ご記入の上お送りください。**
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.520」
クイズプレゼント係
- 締め切り 平成24年9月7日(金)当日消印有効
- ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
(平成24年9月下旬お届け予定)
- 応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。
今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。
no.518のクイズの答えは「水(車)」でした。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**
発行：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町11-33
編集：「喜びのタネまき新聞」編集室
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)
TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771
【お客様の個人情報の取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。
■ダスキンコールセンター
0120-100100 www.duskin.jp